



ようこそ先輩～村島佳佑コンサート～

生徒の皆さんへの校長からのクリスマスプレゼントとして、PTAにもご協力いただき、今年は本校卒業生の村島佳佑さんによるコンサートを企画・実施しました。村島さんは、1988年生まれで本校を2003年に卒業されています。当時の卒業アルバムが校長室にあるのですが、かわいらしい笑顔で写っていらっしゃる本人を見つけました。

当時の卒業アルバムを捲(めく)ってみると、20数年前の大野中学校は、3年生は7クラス。制服は今と同じですが、ジャージの色は現在とは全く違っていました。修学旅行は恐らく2年生で実施していたのだと思います。一面の雪景色の中、スキーを楽しんでいる写真が載っていました。スケッチ大会や文化発表会など、現在では実施しなくなった懐かしい学校行事の写真もありました。学校の教育活動は随分変わりましたが、そこに写っている子どもたちの屈託のない笑顔は、今の君たちと変わりませんでした。



画：外赤先生

村島さんは中学校時代は野球部に所属していて、高校進学後も続けられました。中学・高校時代は野球に打ち込み、音楽の道に進もうとは全く思わなかったそうです。しかし、大学時代に音楽活動に関心を持ち、大学卒業を機に上京し、シンガーソングライターとして活動を開始。東京での約7年間の活動を経て、一時期カナダに語学留学をし、帰国後、2018年1月に佐世保で音楽活動を再開して、現在に至っていらっしゃいます。

アルカス SASEBO でのコンサートを中心に各施設等での演奏、地域イベントへの出演、企業への楽曲提供など、長崎県内を中心に幅広く活動を行っていらっしゃいます。私も今年の6月2日(日)に実施されたアルカス SASEBO でのコンサートに妻と一緒に出演しました。ファン一人一人を大切にされている人柄がとてもよく伝わってくる温かいコンサートに感動しました。

村島さんはアルカス SASEBO の大ホールを「満員」にすることを目標にして地道に努力をされています。みなさんは、今の時点で将来の具体的な夢(目標)をもっている人は少ないかもしれませんが、村島さんは「関心をもったことは、まずやってみよう!」と

おっしゃっていました。芸術家の岡本太郎氏もこんなことを言っています。「気まぐれでも、何でもかまわない。ふと惹(ひ)かれるものがあつたら、計画性を考えないで、パッと、何でもいいから、そのときやりたいことに手を出してみるといい。不思議なもので、自分が求めているときには、それにこたえてくれるものが自然にわかるものだ」。中学校時代に関心をもって行ったことが将来の「何か」につながるかもしれませんよ。本校ホームページの「副校長のへや」もご覧ください。

